



51:52 「それゆえ、見よ、その日が来る。主の御告げ。その日、わたしは、その刻んだ像を罰する。刺された者がその全土でうめく。

51:53 たといバビロンが天に上っても、たとい、そのとりで高くして近寄りたくしても、わたしのもとから荒らす者たちが、ここに来る。主の御告げ。」

51:54 聞け。バビロンからの叫び、カルデア人の地からの大なる破滅の響きを。

51:55 主がバビロンを荒らして、そこから大なる声を絶やされるからだ。その波は大水のように鳴りとどろき、その声は鳴りどよめく。

51:56 荒らす者がバビロンを攻めに来て、その勇士たちは捕えられ、その弓も折られる。主は報復の神で、必ず報復されるからだ。

51:57 「わたしは、その首長たちや、知恵ある者、総督や長官、勇士たちを酔わせる。彼らは永遠の眠りについて、目ざめることはない。その名を万軍の主という王の御告げ。」

51:58 万軍の主はこう仰せられる。「バビロンの広い城壁は、全くくつがえされ、その高い門も火で焼かれる。国々の民はむなしく勞し、諸国の民は、ただ火に焼かれるために疲れ果てる。」

51:59 マフセヤの子ネリヤの子セラヤが、ユダの王ゼデキヤとともに、その治世の第四年に、バビロンへ行くとき、預言者エレミヤがセラヤに命じたことば。そのとき、セラヤは宿營の長であった。

51:60 エレミヤはバビロンに下るわざわいの

すべてを一つの巻き物にするした。すなわち、バビロンについてこのすべてのことばが書いてあった。

51:61 エレミヤはセラヤに言った。「あなたがバビロンにはいったときに、これらすべてのことばをよく注意して読み、

51:62 『主よ。あなたはこの所について、これを滅ぼし、人間から獣に至るまで住むものがないようにし、永遠に荒れ果てさせる、と語られました。』と言い、

51:63 この書物を読み終わったなら、それに石を結びつけて、ユーフラテス川の中に投げ入れ、

51:64 『このように、バビロンは沈み、浮かび上がれない。わたしがもたらすわざわいのためだ。彼らは疲れ果てる。』と言いなさい。」ここまでが、エレミヤのことばである。

バビロニアは強大で恐ろしい国であったが、そのバビロニアでも、時が来れば滅ぼされるようになります。しかし実際にその権力の下にある者はそれを信じるのが難しいでしょう。

私たちがまた同じで、自分の上に力をふるって自分をコントロールするような存在がいるときには、それが永遠に続くような気がします。しかし、信仰の忍耐はそれが希望の変わることを保証します。

エレミヤは「このように、バビロンは沈み、浮かび上がれない。わたしがもたらすわざわいのためだ。彼らは疲れ果てる。」と預言しましたが、まさにそのことが起こるのです。

その忍耐の秘訣は、神に時をゆだねることです。すぐにすぐに…とばかり思っていると、失望ばかりの毎日ですが、主に任せつつその中で恵みに気づいているなら、幸いの中で待つことができるのです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

